

鳥獣センタ－通信

2016
7
Vol.16

発行元
鳥獣被害対策支援センター
電話 09682(0)2888

【鳥獣被害対策支援センター】

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shinrin/mfc/damagesupport/index.html>

鳥害対策（カラス、ハト等）に おける防除機械の効果について

平成26年度の県内における鳥類による農林作物への被害は4,442万8千円に上っており、被害を及ぼす鳥種としてはカラスが2,611万2千円（約60%）、ヒヨドリが1,106万7千円、ムクドリが536万3千円となっています。

そのうち、畜産関係では飼料作物の被害が266万6千円程度あげられていますが、鳥害については、家畜を嘴で突いてけがをさせる、サイレーンや飼料袋を破る、飼料に糞をするなどの被害額として現れにくい被害も多数見受けられます。

鳥獣センタ－では、地域特命チームと連携して、おどし羽根と爆音を組み合わせた防除機械を使った、カラスやハトの追い払いによる畜舎への侵入防止効果の検証を行っていますので、ご紹介します。

この防除機械は、価格が8万円程度でプロパンガスの燃焼による爆音に加えて、燃焼ガスによりおどし羽根を高さ4m程度までガイド棒に沿って射出する仕組みで、従来の音だけでなく羽根の動きによる視覚効果を狙ったものです。20分間程度の時間で設置ができ、移動も比較的容易です。

設置に際しては、鳥の止まり木の近くなど、おどし羽根が鳥から見えるところに設置するのがポイントで、実証期間は1〜2ヶ月程度とし、終了後は

農場主が購入する場合もありました。

鳥の追い払いの難しさとして、防除機械に対する慣れがあげられます。今のところ稼働中に慣れて追い払えなくなったという事例は、カラスでは1〜2件でした。しかし、機械の稼働を一週間ほど停止したところ、カラスやハトが戻って来たということがありますので、機械の効果は根本的な鳥の追い払いにはつながらないと考えられます。

また、敷地面積が広い時に、1台では賅えない場合もあったため、今後は複数台での実証も行う必要があると考えています。

畜舎への鳥類の侵入防止対策としては、防鳥ネット等の設置による物理的な遮断が最も効果的と考えられますが、ネット購入費用や設置労力の関係で設置できない場合には、今回のような防除機械の使用は手軽で有効な手段と考えられます。

この機械については、平成25年度から現在までに17件の実証事例があり、稼働期間中はカラスでは高い追い払い効果が確認できました。ハトでは追い払い効果が出る場合と出ない場合があり、効果がやや不安定でした。

設置場所やエサに対する執着具合などで鳥の襲来は変化するので、効果的な使用方法について、今後も継続して実証を行っていきます。



↑ 防除機械
バードパンチャー



↑ おどし羽根



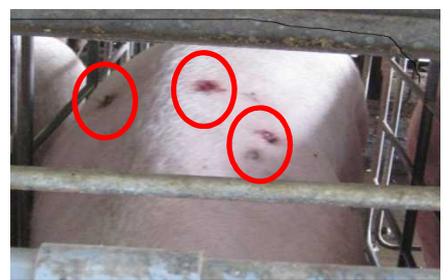
↑ 機械設置の様子(中央)



↑ 牛舎内のハト



↑ カラスによる肥育牛突き被害



↑ カラスによる豚突き被害

被害対策に関する問合せ
西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合
等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

西臼杵地域

これまで、モデル集落や地域リーダーに対する研修会を開催していますが、今回は、地域の要請で実施しました研修について紹介します。

①高千穂町山附集落

昨年度、事業を活用して防護柵（金網）を設置したこともあり、参加者が49名と関心が高い状況でした。

写真や動画を使い、被害状況だけでなく、野生鳥獣に対する餌付けや人慣れが進んだ結果として被害が増えたことなどを説明し、特に、集落ぐるみの取組を継続することの大切さを強調しました。防護柵を設置した後の取組の重要性について認識してもらいました。

②五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校

五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校において、3年生の生徒と先生の42名に対し、五ヶ瀬町内の鳥獣被害の現状と対策について説明を行いました。五ヶ瀬中学校は今年4月に三ヶ所中学校と鞍岡中学校が合併し、新設されましたが、合併以前から総合学習で、身近な地域の課題について考え郷土の町づくりへの関心を高めるために、講義しており、今年で5回目になりました。

五ヶ瀬町内でイノシシやシカによる鳥獣被害が年間3,200万円であること、集落ぐるみでの鳥獣被害対策は正しい知識を持って取り組むことが重要であることについて説明を行いました。

生徒達は、身近に起きていることを実感した様子で、町内の課題の1つとして認識してもらいました。

山附集落でも五ヶ瀬中学校でも、被害発生後の様子は知っていますが、被害が起きている最中を見ることができないため、イノシシやシカによる被害発生や防護柵を突破している様子を動画で確認してもらったときには、なるほどとうなずいたり、驚いたりされ、動画の事例は説得力があると感じました。今後も動画を積極的に活用し、研修効果を高めていきたいと思いをもちました。



五ヶ瀬中学校での様子



山附集落での様子

中部地域

○猿対策研修会を開催しました

11月26日に、宮崎市高岡町仁田尾の露地日向夏園において、「電落君」プラス「猿落君」の展示園設置を兼ねて設置研修会を開催しました。

仁田尾地区は、山林を開拓した果樹入植団地で、地区内に集落は無く、全ての農家が地区外からの通勤農業で、周囲を山林等に囲まれているなど、広域的な電柵の設置や追い払い等の鳥獣被害対策を進める上で、人的、環境的にも条件の悪い地区となっております。

そのような厳しい条件の中で農業を営んでいるため、露地果樹を中心に猿による被害が続いています。中には、露地の果樹栽培をあきらめ、一部では放任園も見られたことから、「中部地域鳥獣被害対策特命チーム」では、平成22年度からモデル集落として位置付けし、巡回指導や現地研修を行い猿対策の話し合いを進めてきました。しかし、柵による侵入防止対策や捕獲対策の要望はあるものの、地区としての活動が出来ていないために、地区全体の合意が得られず、追い払いを主とした市の猿パトロール隊任せとなり、モデル集落としての活動は一時停滞していました。

そのような中、猿の被害が更に拡大してきたため、再度地区代表者からサル対策の要請があり、昨

年3月に井上SPPをはじめ、鳥獣被害対策支援センターと鳥獣被害対策特命チームで、地区内点検を行い、猿から守れる果樹園対策と放任果樹園の対策について協議し、猿から守れる果樹園対策を先行して進めることになり、柵をよじ登る時に電気ショックを与える「電落君」にプラスして、柵より高い周囲の土手からの侵入を防ぐための、「猿落君」の複合対策に取り組むことになりました。

展示園の設置農家は、地区内の新規就農者の丸山さんで、現在、ハウス金柑と露地日向夏を栽培していますが、猿の食害により収穫前の露地日向夏に甚大な被害を受けていました。早急な対策が必要であったことに加え、地区内の若手が鳥獣被害対策に真剣に取り組むことで、地区内への波及効果を期待できることから、展示園農家として選定しました。

当園では3月から収穫が始まっていますが、被害防止効果が確認され、丸山さんも大変感謝されています。今後は、この対策を周辺果樹園へ普及推進するとともに、新たに被害が確認されたヒヨドリ対策や周囲の放任果樹園の対策についても取り組むことになっていきます。



上段：サルの食害被害
下段：展示園設置